

2019 B 日程 LS [0818]

受験番号

2018 年度秋入学・2019 年度春入学 甲南大学法科大学院

一般入学試験問題

専門論文試験

憲法・刑法

(120分)

受験についての注意

1. 試験開始の合図があるまで問題冊子を開いてはならない。
2. 問題は2ページである。印刷不鮮明、汚損等があれば申し出ること。
3. 解答用紙は、憲法、刑法各1枚である。解答用紙には裏面もあるので注意すること。
4. 解答は、該当する科目の解答用紙を使用すること。解答用紙を誤った場合、その答案は無効となる。
5. 答案は、横書きとする。
6. 答案は、実線内の番号に従って書き進めること。
7. 答案は、黒ボールペン（但し、フリクション等の消せるボールペンは不可）または黒インクの万年筆で記入すること。これら以外で記入された答案は、無効となる。
8. 答案を訂正するときは、訂正部分が数行にわたる場合は斜線で、1行の場合には横線で消して、その次に書き直すこと。
9. 下書きには、問題冊子の余白を適宜利用すること。
10. 問題冊子は必ず持ち帰ること。

専門論文試験 憲法

《第1問》

以下の【事例】を読んで、〔設問1〕〔設問2〕に答えなさい。

【事例】

1人の男が市役所の窓口における市職員の対応にクレームをつけ、職員に暴行を加えて、逃走した（職員に怪我はなかった）。この状況を、たまたま居合わせたテレビ局A放送の報道カメラマンがデジタルビデオカメラで撮影しており、A放送はこれを編集しニュース番組で放映した後、撮影時の生データが記録されたディスクを保管していた。その後、この事件を公務執行妨害事件として捜査中で男の行方を追っていた司法警察員が、令状に基づき同ディスクを押収した。A放送は押収処分が憲法違反であるなどとして、その取消しを求める準抗告を裁判所に申し立てた。

〔設問1〕

上記事例を検討する際に参照すべき最高裁判例の通称を書きなさい。また、その判例で用いられた判断枠組がどのようなものであったか説明しなさい。

〔設問2〕

上記押収処分が憲法違反か否かに関し、次の①②の場合について、あなたの意見を書きなさい。

- ①市役所の防犯カメラが男の言動の一部始終を詳細に撮影し、市役所が動画のデータを警察に提出していた場合。
- ②現場周辺に防犯カメラは設置されておらず、男の言動に関する現場にいた人たちの証言も一致しない場合。

《第2問》

立憲主義とは何かについて、簡潔に説明しなさい。

専門論文試験 刑法

《問題》

以下の【事例】を読んで、X及びYの罪責について論じなさい。

【事例】

XとYは、以前から2人でスナックの経営者に睡眠薬を飲ませて眠らせ、金品を盗取するという昏酔強盗を行っていたが、某日、遊興費欲しさから、同様の昏酔強盗を計画し、睡眠薬を用意して、予め狙いを定めていたスナックAで、午後11時頃から酒を飲み始めた。

翌午前0時過ぎ、他の客が帰ったことから、Xは、Aの経営者Vにビールを飲むように勧め、Yの誕生祝いだなどと嘘を言っていわゆる一気飲みを何度もさせることにより、Vを酔わせるように仕向けた。さらに、Xは、Vのすきをうかがってビールグラスに睡眠薬を入れ、これをVに飲ませた。しかし、Vは、意識がもうろうとし始めたものの、眠り込むまでには至らなかった。Xは、Vが眠り込むのを待ち切れず、Vに暴行を加えて気絶させた上、金品を奪取しようと考え、カウンターの中に入り、「この野郎、くたばらないのか。」と言って、Vの顔面を手拳で数回殴打し、更に一回足蹴にしたため、Vは頭部顔面外傷の傷害を負い、気絶した。

この間、Yは、これまでXとの間で「絶対に手荒な真似はしないでおこう。」と約束し、昏酔強盗以外の行為に及んだことはなかったことから、呆然と事態を見守っていたが、Xに促されて我に返り、Xとともにカウンターの引出しの中にあつた現金数千円を奪った。

以上